



米系のシティバンク、英系のスタンダード・チャータード銀行と外資系銀行にて、20年以上、外国為替ディーラーとして活躍。その後、独立し現在は投資情報配信を主業務とする株式会社 ADVANCE 代表取締役。

今週は、米中貿易問題とトランプ大統領の発言に振り回された1週間でした。

2日はトランプ大統領が米国の郵便システムにただ乗りしていると発言したことでアマゾン株が下落。

3日に米国が中国に対する追加関税を発表すると、4日には中国が大豆、自動車、航空機など米国の主要な輸出品に対する報復関税を発表しました。

この中国の報復措置によってドル円は106円割れまで、クロス円も下落しました。ダウ先物は一時的に500ドル超の下落となりましたが、米国側が態度を軟化させると、米国株は大幅に上昇、ドル円も107円台を回復しました。

ここまで米中は貿易に関するカードをお互いに晒し、ここから交渉しましょうというところまできたのであれば、市場はそれを好感して落ち着きを取り戻したところだと思われます。

ただ本日は米雇用統計の発表があるために、その前にショートポジションの調整があったのかもしれない。

ここからのポイントは2点あります。まず本日の雇用統計をうけてマーケットがどう動くか。

水曜日に発表された雇用統計の前哨戦ともいえるADP民間雇用者数は24.1万人となり前回の24.6万人には届きませんでした。予想の20.8万人は上回りました。

前回の米非農業部門雇用者数は31.3万人と非常に強い数字でした。今回は引き続き失業率や時間当たり賃金の上昇率に注目が集まります。

しかし現在マーケットが注目しているのは米国の貿易問題なので、13日前後に発表される米財務省の半期に一度の為替報告書です。

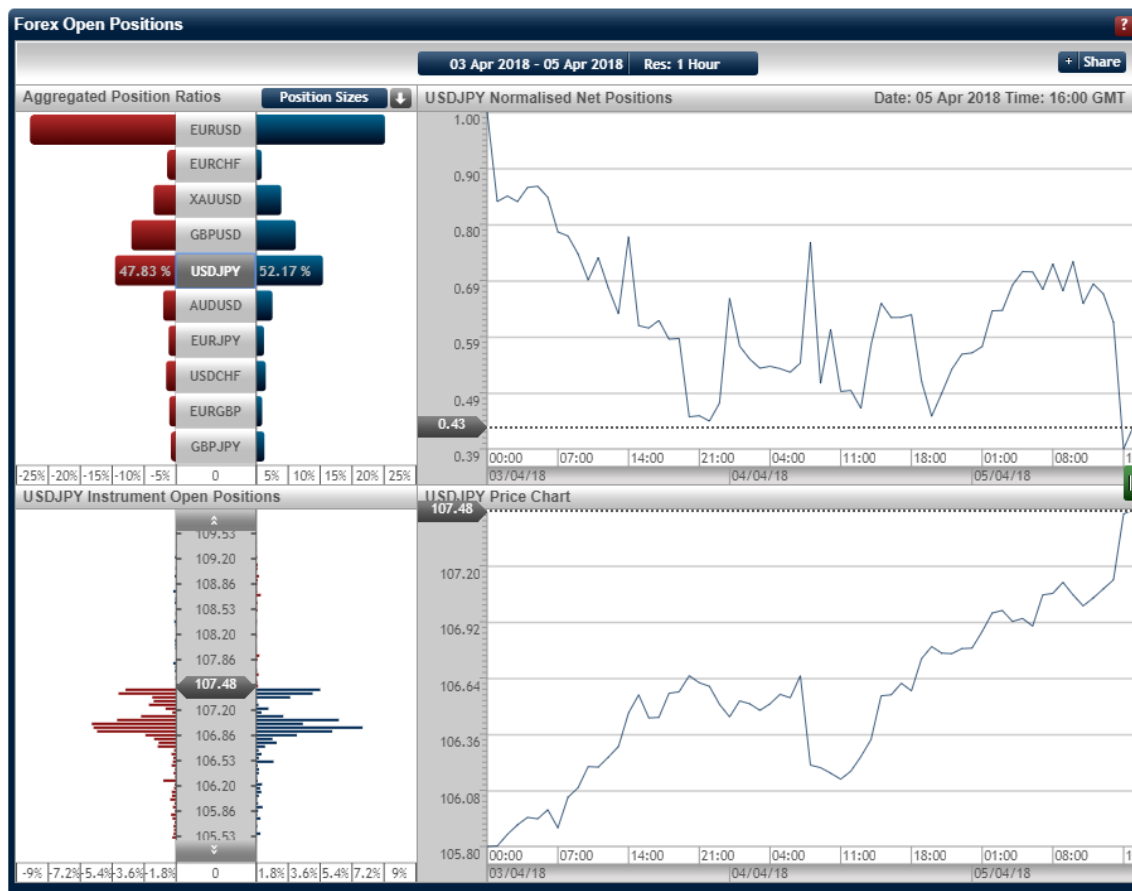
為替報告書の監視リストは、対米貿易黒字が年間200億ドル以上、経常収支の対GDP比が+3%以上、継続的な外貨買い為替介入が12ヶ月でGDPの+2%以上、この3つのうち2つを満たすと監視リスト入り、すべて満たすと為替操作国に認定され制裁の対象となります。

	対米貿易黒字	経常収支	為替介入	
中国	357	1.30%	-2.70%	監視リスト
日本	69	3.70%		監視リスト
ドイツ	63	7.70%		監視リスト
メキシコ	69	-1.70%	-0.20%	
韓国	22	5.70%	0.30%	監視リスト
台湾	14	12.70%	0.90%	
スイス	13	10.30%	8.70%	監視リスト
英国	-1	-5.10%		
ユーロ圏	126	3%		

この表は 2017 年 10 月発表分の為替報告書をまとめたものです。

対米貿易黒字の単位は 10 億ドル、経常収支は対 GDP 比、為替介入は外貨購入額の対 GDP 比です。

ドル円は 104.54 が中期的な安値だったと思われます。ここまでのドル円の下落によって円ショートはだいぶ買い戻されと思われます。今週は貿易問題など悪材料が出ているにもかかわらず、ドル円は継続的に下落せず反発しています。



この表は SaxoBank さんのツールでオープン・ポジションです。

執筆時点（4月5日深夜）でドル円のポジションはロング 52.17%、ショート 47.83%になっています。106.80~107 のゾーンでポジションが固まっていることが分かります。これを見るとロング勢もショート勢も 106.80~107 に集中している可能性が高く、ここから下落した場合、そのレベルが止まるかどうかのポイントになりそうです。



チャートはドル円の8時間足です。

短期的には 104.54 でボトムをつけたドル円は 107.50 付近まで反発しています。

105.50~106 のゾーンがサポートできれば、反発がどこまで行くか戻りを試しに行く展開が継続するものと思われます。

ターゲットとしては 107.50 付近(105.54 起点のフィボナッチ・エクспанション 1.618 倍) 108.40 付近 (2017 年 11 月 6 日の高値 114.72~3 月 25 日の安値 104.54 のフィボナッチ・リトレースメント 38.2%戻し)、2108.85 付近 (フィボナッチ・エクспанション 2.618 倍)、109.60 付近 (2017 年 11 月 6 日の高値 114.72~3 月 25 日の安値 104.54 のフィボナッチ・リトレースメント 50%戻し) が想定されます。

ここまではリスクオフの流れからドル円は戻り売りのスタンスですが、しばらくは中立スタンスと考えています。



【本レポートについてのご注意】

■本レポートは、投資判断の参考となるべき情報提供のみを目的としたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

■本レポートは、作成時点において執筆者およびサクソバンク証券（以下「当社」といいます。）が信頼できると判断した情報やデータ等に基づいて作成されていますが、執筆者および当社はその正確性、完全性等を保証するものではありません。また、本レポートに記載の情報は作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。

■本レポート内で示される意見は執筆者によるものであり、当社の考えを反映するものではありません。また、これらはあくまでも参考として申し述べたものであり、推奨を意味せず、また、いずれの記述も将来の傾向、数値、投資成果等を示唆もしくは保証するものではありません。

■お取引は、取引説明書および約款をよくお読みいただき、それらの内容をご理解のうえ、ご自身の判断と責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者および当社は責任を負いません。

■本レポートの全部か一部かを問わず、無断での転用、複製、再配信、ウェブサイトへの投稿や掲載等を行うことはできません。